



かみなりはどうして金属に落ちるの

電気が空気中を流れる

かみなり雲(積乱雲)の中には、プラスの電気とマイナスの電気が、それぞれ、別々の所べつべつところに集まってたまっています。

雲の下の方では、マイナスの電気がたまっています。このとき地上では、プラスの電気がたまります。たまった電気が、雲から地上に流れたときを、かみなりが落ちたといいます。

空気は電気を通しにくいので、ふつう、電気は空気中を流れません。しかし、かみなりの電気は、非常に強いので、空気中を流れてしまいます。

金属は電気が流れやすい

かみなりの電気は、電気が流れにくい空気中を通っているので、近くに電気が流れやすい金属などがあると、電気は流れやすいほうに流れてしまいます。電気は空気中を流れるよりも、金属の中を流れようとします。

つまり、金属があると、その金属にすいよせられるように、かみなりの電気が流れてしまいます。これが、かみなりがよく金属に落ちる理由です。

身につけている金属をはずす

山や高原、河原などでかみなりにあうと、まわりには金属のものがいないために、人の体につけている金属にかみなりが、落ちることがあります。このときは、時計などの身につけている金属のある物ものをはずし、なるべく低い所で体をかがめて、じっとしていることです。

(監修・村山 貢司)

